

症例報告書

症例区分（※主たる1つのみ選択、複数選択不可）

身体症状（痛み）
 身体症状（痛み以外）
 精神症状
 せん妄
 終末期の鎮静
 社会的な関わり
 スピリチュアルな関わり
 その他

患者年齢 65 歳 性別 男・女 診療施設名 ABC 病院

認定研修施設

【診療形態】外来（緩和ケア・一般）、入院（緩和ケア病棟・一般病棟〔緩和ケアチーム有・無〕）、在宅ケア

【介入の経緯】院内から紹介、院外から紹介、直接受診

【主に緩和医療を提供した期間】2006年12月～2007年6月

【転帰】外来（緩和ケア・一般）、在宅ケア、転院（緩和ケア病棟・一般病棟）、死亡（看取り有・無）

確定診断名（主病名および副病名）

- #1. 直腸がん術後再発
- #2. がん性疼痛
- #3. 転移性脊椎腫瘍
- #4. 下肢麻痺

【コンサルテーションの目的】疼痛コントロール

【介入時の主訴】会陰部痛、腰痛

【既往歴】特記すべきことなし

【家族歴】父：直腸がん（70歳時死亡。患者が看取った。）

【生活歴】71歳の夫と二人暮らし。息子が二人いるがともに独立し、隣県に在住。

【介入時までの現病歴】

2005年5月、直腸がんの診断のもとに、当院消化器外科にて低位前方切除術および人工肛門造設術施行。P-stageⅢだったため、術後補助療法を半年間施行。術後1年で会陰部痛出現、腫瘍マーカー上昇、CTにて局所再発、及び多発性肝転移を認めた。ロキソプロフェン1回60mg、1日3回が処方され、局所再発部に放射線治療（以下RT）30Gy施行後、5-Fu、1-LV、オキサリプラチン、ベバシズマブによる全身化学療法を10回施行。一時腫瘍マーカー低下し、CT上肝転移は縮小したが、最近会陰部痛に加えて腰痛も出現、MRIにてRT施行した局所再発部が増大し仙骨へ浸潤していることがMRIにて確認され、病状進行と判断された。オキシコドン徐放製剤（以下OXC）1回10mg、1日2回で追加処方されたが会陰部痛、腰痛いずれも軽減しないため、2006年12月、疼痛コントロール目的に緩和医療科に紹介となった。

【介入時の現症】

紹介時、痛みのためPSは2。会陰部痛、腰痛とも責任病巣は仙骨前面からS3,4に浸潤する大きさ6cm程度の再発腫瘍で、会陰部を中心に幅5cmの同心円状にしびれた感覚を伴ったNumeric Rating Scale（以下NRS）で6/10の鈍痛があり、腰痛は体動時に増強する傾向（NRS 7/10）があったが足先への放散痛はなく、落ち着いている時はNRS 4/10程度であった。

他の画像所見として、少量の腹水貯留と腸間膜リンパ節が多数腫大しており、がん性腹膜炎の状態と考えられた。骨シンチではS3,4以外に左腸骨、Th7、Th12、右第9肋骨に集積を認め、多発性骨転移と考えられた。肺転移なし。採血データでは、Hb 9.8 g/dlと軽度貧血を認めた以外血算は基準値内、AST 85 IU/l、ALT 52 IU/l、ALP 547 IU/l、LDH 452 IU/l、BUN 18 mg/dl、Creat 0.81 mg/dl、Ca 9.6（補正Ca 10.1）mg/dlと軽度肝機能障害を認めたが、腎機能、Ca値は正常であった。

